

いせさきの まちなか

～その歴史と現在、未来～



いせさきのまちなか（中心市街地）では、
今、「にぎわいのあるまち」を目指して
色々な取り組みを進めているところです。
このまちの歴史を知り、現在の状況を知り、
そしてまちの未来を一緒に考えませんか。

まちの成り立ち

江戸時代を中心に

この地域は古来、「赤石」と呼ばれていました。^{あかいし}
その由来は、広瀬川が侵食し、露出した崖の関東
ローム層の「赤土」の様子からと言われています。
戦国時代には、この崖の上に砦が築かれ、赤石城

と呼ばれていました。永禄8年(1565)由良成繁^{ゆらなりしげ}は、赤石城を再興するため、伊勢神宮に土地を寄進し、城の守護神として城内に伊勢宮が建立されました。これにより、この地域が「伊勢の前」や「伊勢の先」と呼ばれるようになり、「伊勢崎」という地名が生まれました。そして、天正年間(1573~1591)までには赤石城も伊勢前(崎)城と名前を変えています。慶長6年(1601)の関ヶ原の戦いの後、稲垣^{いながき}長茂が伊勢崎藩主となり、伊勢崎城を藩庁として使用します。ただし、伊勢崎藩は当時1万石の小藩であったため、伊勢崎城は「陣屋」^{じんや}として扱われていました。



▲伊勢崎駅周辺の整備事業に伴う発掘調査によって明らかになった、伊勢崎城(陣屋)の堀跡

▲寛政十年伊勢崎町絵図

(1798年、市図書館所蔵)

伊勢崎藩の絵師鈴木円太夫^{すずき えんたゆう}によって作成された、江戸時代の伊勢崎のまちなかの様子です。「10間(約18.2m)を1寸」に縮尺して描かれています。伊勢崎城の部分には酒井家の家紋「丸に剣片喰」^{けんかたぼみ}が描かれています。

まちの成り立ち

縄文時代から明治時代初期まで

時代	年	主な出来事	
縄文時代	一万年前頃	波志江 <small>ごんげんやまいせき</small> 権現山遺跡で土器が使用される	・縄文時代が始まる
	紀元前100年頃	このころ、伊勢崎地域に弥生文化が伝わる	・稲作が始まる
古墳時代	400年頃	長持型石棺 <small>ながもちがたせつかん</small> を有するお富士山古墳が作られる	
	6世紀後半	原之城 <small>げんのじょう</small> （豊城町）に豪族の居館ができる	
飛鳥時代	7世紀後半	上植木 <small>かみうえきはいじ</small> 廃寺が建立される	・大化の改新
	1108年	浅間山が爆発し降灰により上野国など諸国に被害をもたらす	・平安京遷都
平安時代	1268年	宮子の笠塔婆 <small>かさとうぼ</small> が建立される	・源頼朝、征夷大將軍となる
	1565年	由良成繁・国繁 <small>くにしげ</small> 父子が120貫文の地を伊勢神宮領に寄進する	・南北朝の合一 ・応仁の乱 ・本能寺の変
室町時代	1601年	稲垣長茂が伊勢崎藩主となる。以後、伊勢崎の城下町が形成される	・徳川家康、征夷大將軍となる
	1637年	厩橋 <small>うまやばし</small> 藩領から分割されて酒井忠能 <small>さかいただよし</small> が伊勢崎藩主となる	・厩橋藩主酒井忠世が大老職
江戸時代	1662年	伊勢崎河岸ができる	
	1681年	前橋藩領から分割されて酒井忠寛 <small>さかいただひろ</small> が伊勢崎藩主となる。	・生類憐みの令
明治時代	1774年	伊勢崎藩校（学習堂）が創設される	・享保の改革
	1873年	伊勢崎町に赤石学校が開校される	・天保の改革 ・大政奉還 ・廃藩置県

明治期～大正期のにぎわい

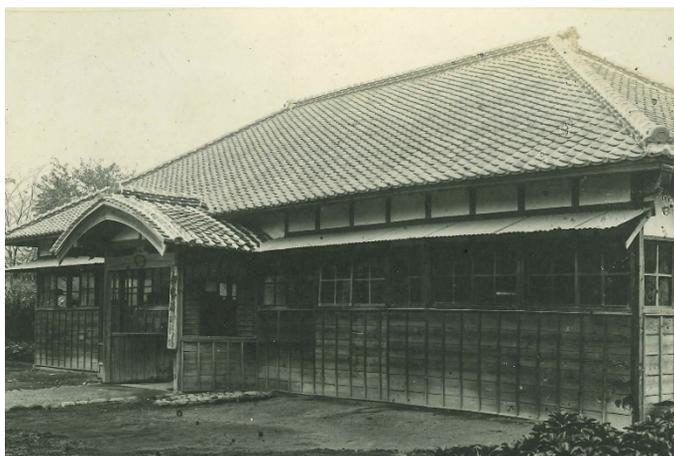
まちの発展と織物産業

明治時代に入り、新政府から次々と新しい制度が出され、社会生活は大きな転換期を迎えます。伊勢崎の中心産業であった織物業では、伊勢崎銘仙が大衆着として人気となったことにより、需要が拡大し、高機の導入などの技術革新もあり、生産が盛んになっていきました。

このような産業の発達を支えたもののひとつとして、生産品の輸送のための鉄道（明治22年伊勢崎駅開業）や道路といった交通網の整備があります。伊勢崎城の城下町であった市街地もこれにより整備が進んでいき、商店街が発展し、多くの人々でにぎわいました。



▲伊勢崎織物同業組合



▲伊勢崎町役場



▲西より見た伊勢崎停車場



▲警察署前より見た本町市街

伊勢崎空襲とカスリン台風

1945年～1947年

昭和20年8月14日から15日にかけての真夜中に伊勢崎市はアメリカ軍の空襲を受け、甚大な被害を受けます。物資や資金が不足する中、戦後の復興を進めるため、焼失した北国民学校（現在の北小学校）の建設といった復興事業がおこなわれました。

このように復興へと取り組み始めたところへ、昭和22年9月にカスリン台風が襲来し、伊勢崎市内は大規模な水害に見舞われました。

戦災や水害の影響が残る中、昭和25年に伊勢崎市は市制施行10周年を迎えました。これを祝うため、産業、文化、スポーツなどの各分野で多彩な行事が全市的に繰り広げられ、市街地にはネオンサインや街路灯が取り付けられ、度重なる災害からの復興を推進するための弾みを付けました。



▲西園・川久保両町家屋流失の跡①



▲西園・川久保両町家屋流失の跡②



▲近村の青年団も勤労奉仕に



▲復旧への槌音(伊勢崎空襲)

伊勢崎空襲について

終戦前夜の昭和20年8月14日14日深夜から15日未明にかけ、アメリカ軍B29爆撃機約30機により伊勢崎市街地は焼夷弾と爆弾による空襲を受けたと上毛新聞が伝えています。

この空襲によって、市街地の3地域が帯状に焼夷弾によって焼かれ、周辺地域の被害も含め死者は40人にも達しました。

焼け野原となった市街地では、罹災りさいした人々が焼失した家屋の残骸や瓦礫がれきを埋めて復興に尽力し、その瓦礫を埋めた無数の穴が発掘調査で確認されています。

カスリーン台風について

昭和22年9月16日、カスリーン台風による降雨は、戦後最大の洪水となり、埼玉県側（現・加須市）では堤防が最大約350mも決壊し、濁流が東京都江戸川区まで流れ、甚大な被害をもたらしました。伊勢崎市でも、広瀬川および粕川で堤防が決壊し、橋や家屋の流出、床下・床上浸水等未曾有の大水害となりました。

カスリーン台風による死者は1,100人、傷者は2,400人にのぼり、群馬県で592人、栃木県で352人の死者が出ています。



まちなかの復興と郊外の発展

1970～80年代

高度経済成長期に入り、人々の生活は豊かになり、買い物客が増えたまちなかの商店街は、大型店が開店するなど、発展していきました。

ところが、昭和40～50年代頃になると、郊外で大規模な工業団地が造成されたり、区画整理事業により住宅地が整備されたりするようになりました。これに加え、各家庭で自家用車を持つようになり、その結果、まちなかの人口が減少し、郊外の人口が増加する現象が起き、まちなかはかつての賑わいを失っていきました。

昭和51年に伊勢崎オートレース場が開設されると、その周辺に様々な店舗が立ち並び、平成9年には広い駐車場を有した郊外型のショッピングモールであるスーパーモールいせさき（西部モール）がオープンし、大人から子どもまで大勢の買い物客でにぎわいました。



▲いせや伊勢崎店



▲県内最大規模を誇ったMOVIX伊勢崎



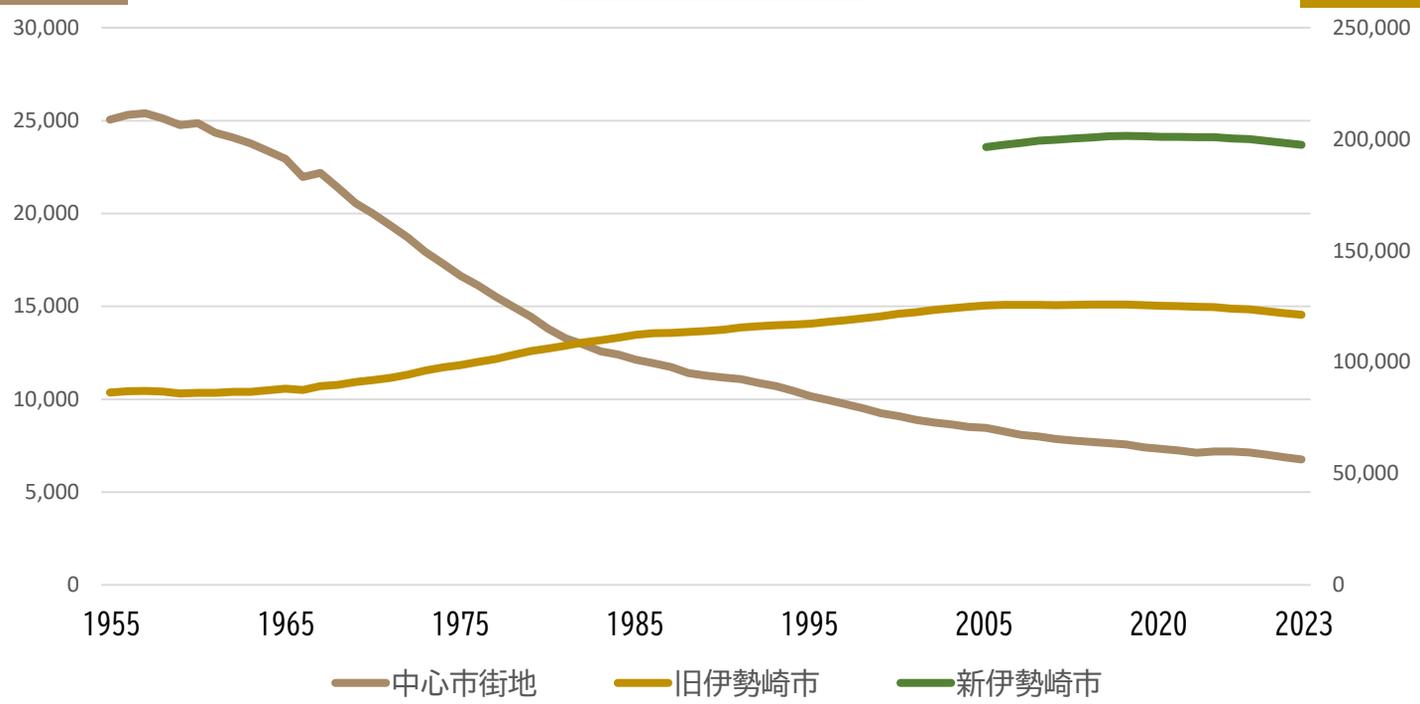
⑧ ▲七夕祭りの様子



▲オートレース場とカインズホーム

人口の移り変わり

新伊勢崎
旧伊勢崎



まちなか活性化に動く市民

2000～2010年代

1995年1月に発生した阪神・淡路大震災をきっかけにした全国的な市民活動の盛り上がりは、本市のまちなかでも盛り上がりを見せることとなります。

1985年に結成された「街づくり市民ゼミナール」による「ウォークギャラリーと音楽の夕べ」や「地域づくり団体全国研修交流会・群馬大会」、市内の建築士が組織した「いせさき街並み研究会」の「旧時報鐘楼等のペーパークラフト制作」、^{「ぎゅっしほうしやうろう」}「焼きまんじゅう愛好会」の「上州焼饅祭」^{じやうしゅうやきまんさい}など、様々な市民団体の活動がまちなかを彩りました。そして、この動きと呼応するように、県内最古の木造洋風医院建築である黒羽内科医院旧館が2002年11月に約100m^{ひきや}曳き家され、新たなまちなかの拠点「いせさき明治館」として生まれ変わります。いせさき明治館では伊勢崎銘仙の企画展示等が行われ、多くの来場者を集めています。その後も、2005年からはろうそくの灯りでいせさき明治館等の歴史資産を灯す「いせさき燈華会」が、2007年からは緑町の路地裏で「いせさきアーティストフェスタ in 路地裏」が、2012年からは「いせさき銘仙の日」の中で「銘仙ファッションショー」が行われるなど、まちなかの活性化に向けて、多くの市民が動き出し始めました。



▲地域づくり団体全国研修交流会



▲上州焼饅祭



10 ▲黒羽内科医院旧館の曳き家移転



▲銘仙ファッションショー

まちなか活性化の取り組み

伊勢崎市としての取り組み

本市の駅周辺地区は、都市形成の骨格は戦前とほとんど変わっておらず、基盤整備の遅れから、近年は街の中心としての求心力を失いつつあるのが現状です。

玄関口として賑わいと活気を取り戻すことが、本市全体の魅力を引き出す上で重要であるという位置付けから、伊勢崎駅周辺総合開発事業等に取り組んでいます。

主な取り組みの事例

基盤整備



道路工事



駅前植栽工事

拠点整備



新保健センター
建設工事



にぎわい創出拠点
整備

経済活力向上



いせさき楽市
(月例マルシェ)



講演会・
シンポジウム

中心市街地活性化基本計画区域伊勢崎市中心市街地活性化基本計画で定めるところの中心市街地活性化基本計画区域とは、大手町、曲輪町、平和町、本町、緑町、中央町、三光町、喜多町、太田町、柳原町(中心商業地及びその周辺)の約137ヘクタールです。



まちなか活性化支援会議

まちなかにおける経済活力の向上を通じた活性化を目的に「まちなか活性化支援会議」を組織し、課題解決に向けた意見交換や事業計画策定を行っています。毎月第三土曜日は、駅前の広場を活用した定期イベント「いせさき楽市」を開催し、【市民が主体的にまちなかを使う】を実践しています。また、まちなかの方向性を考えるシンポジウム等、年間を通して様々な事業を行っています。



▲支援会議の
ページ

いせさきまちなか宣言

8つの宣言でまちなかをもっと楽しく！

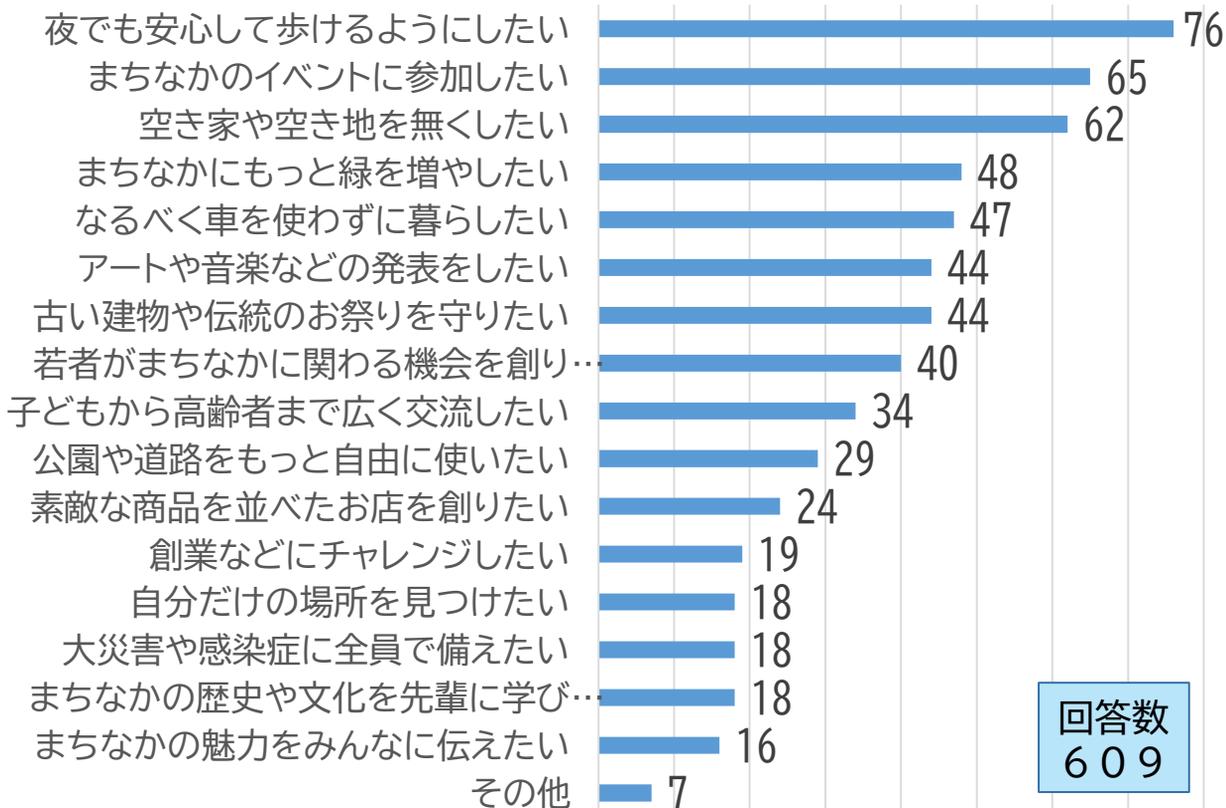
まちなか活性化支援会議では、まちなかシンポジウム等での意見やまちなか市民アンケートの回答に基づき令和5年1月にまちなか宣言を策定しました。

まちなか宣言は、まちなかに関わる全ての人々が共有していただきたい将来像であり、まちなかの活用にかかる共通の約束事です。

皆さんも今後の伊勢崎のまちなかについて、一緒に考えていきませんか。

【まちなかアンケート結果抜粋】

問 あなたがまちなかでやってみたいことは？



回答数
609

8つの宣言でまちなかをもっと楽しく！



まちなかを全力で楽しむイベントを、みんなで楽しみながらつくりまします。

駅前広場でキッチンカーのランチを食べたりライブ演奏を楽しんだり、買い物したり。まちなかを全力で楽しむためのイベントは、自分たちの手でつくっていきましょう！



まちなかの空き家や空き地を、工夫とアイデアで生まれ変わらせます。

今は十分に使われていない場所も、全部が立派な「まちの宝」。みんなの工夫とアイデアを集めて、今までにない素敵な場所に生まれ変わらせよう！



いつでも誰でも、安心して安全に歩ける
まちなかを、みんなでつくります。

夜、ひとりで歩くのはちょっと怖い今のまちなか。だけど、いつでも誰でも、安心して安全に歩ける場所になるように、みんなで学んで、考えて、取り組んでいこう！



歩きや自転車の移動が楽しい、人が
中心のまちなかを一緒につくります。

人がまちなかの中心にあると、居心地が良くなって、人に優しくなって、そして、歩きたくなる場所になっていく。
人が集まる、多様な活動のあるまちへ。



アートや音楽を伝えたい人と楽しむ
人が融合する、素敵な空間にします。

様々なクリエイターや音楽家が活躍できるまちなか。いつでもアートや文化に触れることができるまちなか。私達の日常に豊かさとワクワクがあふれるために、アートや音楽が近くにあるまちなかにしませんか？



まちなかの緑をみんなで育てて、交流
の場として大切に活用します。

駅前に緑豊かな芝生広場がある風景や、まちなかで所々に見かける木々の風景、広瀬川沿いの水辺の風景も大切な宝物。みんなで守って、育てて、積極的に使っていこう！



歴史的な建物やお祭りなどに積極的に触れ
て、まちの伝統や文化を守ります。

伊勢崎の名前の由来が「伊勢の前」だったり、北小の前の旧時報鐘楼は大正時代の建物だったり、まちなかには歴史と文化がたくさん残っている。もっとまちなかを知って、楽しんで、伝えよう！



新たな挑戦に取り組む若者たちを応援し、参加しやすいまちなかにします。13

やりたいコトに何度でも挑戦できるし、新たな挑戦に向かう人は全力で応援する。がんばる人が集まって、そして、つながれる。私達のまちなかをそんな場所にしたい！



まちなかを全力で楽しむイベントを、みんなが楽しみながらつくりましょ。
ISESAKI CITY

歴史的な建物やお祭りなどに積極的に触れて、まちの伝統文化を誇りましょ。
ISESAKI CITY

いつでも誰でも、安心で安全に楽しめるまちなかを、みんなが楽しみましょ。
ISESAKI CITY

まちなかの緑をみんなが育て、交流の場として大切に活用ましょ。
ISESAKI CITY

活性化の取組みにご参加ください！

いせさき楽市

伊勢崎駅前公共空間を活用して、コロナ禍における屋外での安心な買い物の場づくりや、中心市街地の活性化を目的に、農産物や加工食品、生活雑貨などを販売するマーケットを開催しています。



▲いせさき楽市のページへ

まちなか未来学校

空洞化が加速するまちなかの経済活力向上と、地域活性化に取り組む人材の育成を目的として、令和5年度に「まちなか未来学校」を開校しました。今後も継続して開催していきます。



▲未来学校のページへ

まちなか地域おこし協力隊

まちなかで活躍する人財を募集するもので、「まちなか活性化支援会議」と共に地域課題の解決につながる経済活動に取り組み、更には、自らも移住・起業を前提とした活動に取り組んでいただきます。



▲地域おこし協力隊のページへ

にぎわい再生事業費補助金

まちなかで多様な担い手が行うにぎわい創出事業を支援し、活力のあるまちづくりへの貢献や、イベントの企画運営を自立して行える団体を育成することを目的として補助金の交付をしています。



▲補助金のページへ

伊勢崎市まちなか活性化支援会議

伊勢崎市・北地区区長会・南地区区長会・伊勢崎商工会議所・群馬伊勢崎商工会
アイオー信用金庫・まきばプロジェクト・群馬県宅地建物取引業協会伊勢崎支部
全日本不動産協会群馬県本部伊勢崎担当